

単元名

体つくり運動 カヤック体験



単元の概要

これまで自分たちの生活に馴染んでいた「海」を活用したマリンスポーツを体験することで、「江田島の魅力」を体感したり、「マリンスポーツが楽しい」と感じてマリンスポーツに興味をもったりしてほしいと思ったのが学習のスタートです。カヤックを漕ぐことで体力向上だけでなく、江田島市の魅力を感じ、アピールするための教材として教科横断的な学習にもつながります。

【本質的な問い合わせ】(何度も問い合わせ答えが更新され続ける「問い合わせ」)

○生涯にわたって健康を保持増進するためには、どうすればいいのだろう。

【単元を貫く問い合わせ】(単元を通して考え深めていく「問い合わせ」)

○どうすれば運動と楽しく向き合うことができるだろうか。

【単元の目標】

○海での活動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を目指す。

活動の様子（全10時間）

【情報収集（1時間）】

○体育分野の水泳の単元内にある安全面（救助方法）について確認する。万が一、溺れた時や海に落ちた際の対処法についてICTを活用し、動画で学習した。

【体育の授業（6時間）】

○海に出てカヤックを体験する。

【まとめ・創造・表現（1時間）】

○練習してきた成果を生かし、全校レクリエーションでカヤック競漕大会を実施した。



活動の様子



活動後の様子

児童生徒の変容

- これまでに生徒は海で泳ぐことはあっても、マリンスポーツを初めて体験した生徒が多く、海に対する恐怖感があるのではないかと懸念していたが、積極的に楽しく取り組んでくれた。そのことにより身边にある海や資源が豊かな江田島を大切にていきたいと思う生徒が増えた。
- ただ漕ぐだけで良いと思っている生徒も多かったが、漕ぎ続けるためには全身の筋肉を運動させ、ボートの乗り降りや漕ぐ際のバランスを保つため体幹の重要性を感じている生徒が増えた。

連携機関・団体・人物

【海上での巡視】江田島市立三高中学校 校長 喜多村 昭宏さん

江能ディーゼル 名島 義久さん

マルキョウ水産 大越 真也さん

【SUP体験（夏）】江田島市在住 小野藤 訓さん



カヤックと巡視船

成果○と課題●

- 今年度はカヤック体験だけでなく食育（漁業体験）や夏季休業期間にSUP体験も実施することができ、地域の自然を活用した授業を教科横断的な学習として展開することができた。
- 保護者の方も興味をもっていただき、授業を参観したり、応援していただくことができた。
- 持続可能な取組にするための連携や実施できる環境を整備していく必要がある。

単元名

食育を通して、三高の海を考える



#漁業体験 #ふるさと #魚 #魚料理 #江田島の魅力 #食育



単元の概要

自分たちが育ってきた三高にはどのような歴史があるのか、何が名産なのか、何が有名なのかなど、ふるさとについて考えてほしいと思ったのが学習のスタートです。漁業や調理など実際に体験することを通して三高（江田島）の海に愛着と誇りを持たせることや、食に対する意識を向上させることだけでなく、異学年の生徒同士が協力して課題に取り組んでいく力を育てるなどもできます。

【本質的な問い合わせ】（何度も問い合わせが更新され続ける「問い合わせ」）

○わたしたちはふるさと（三高）のために何ができるだろう。

【単元を貫く問い合わせ】（単元を通して考え方を深めていく「問い合わせ」）

○わたしたちが住む三高ってどんなところだろう。

【単元の目標】

○食育で身につけたい5つの力（食べ物をえらぶ力、食べ物の味がわかる力、料理ができる力、食べ物のいのちを感じる力、元気なからだがわかる力）を育てる

○三高の海に愛着と誇りを持たせ、ふるさと三高について自分の言葉で説明することができる。

活動の様子（全 10 時間）

【情報収集（4時間）】

○ふるさと学習

「三高」の地名の由来や、農業や漁業、人口減少の問題について

江田島の海の生物、牡蠣養殖や網揚げ漁の種類、漁獲量の減少について。

○魚のさばき方・レピシ調べ

魚のさばき方を実際に見て学んだ後、タブレットを用いてレシピ作成。

○漁業体験の注意事項、食中毒

・刺し網漁の仕組みや船の乗り方、海の危険な生物について。

・腸炎ビブリオ・黄色ブドウ球菌・アニサキスについて。



三高の歴史について（川尻さん）



食中毒について（養護教諭）

【漁業体験・調理実習(5時間)】

- 海に出て、漁業体験を実施。
- 自分のレシピに合った魚を選び調理実習。
- 【振り返り(1時間)】

- 学習を通して学んだこと、これから生かしていきたいことや、ふるさとを思う気持ちがどのように変化したか等まとめる。



漁業体験の様子



調理実習の様子

児童生徒の変容

- これまでに生徒は魚を食べたり自分で釣りに行くことはあっても、船に乗って網で魚を獲ったり、魚を自分で捌いて調理したりする機会はない生徒が多かったが、協力して網を揚げたり、魚の捌き方を教え合うなど積極的に楽しく取り組んでくれた。
- 実際に漁業を体験したり、調理することによって、刺し網漁をする漁師さんの苦労、毎日ご飯を作ってくれる保護者のありがたさを実感する生徒や、無駄に魚を獲りすぎないこと、感謝して命をいただくことなど三高の海や資源を大切にていきたいと思う生徒が増えた。

連携機関・団体・人物

【ふるさと学習(三高の歴史)】学校評議員 川尻 博文さん

【ふるさと学習(三高の漁業)】江田島市水産課 藤本 昇大さん

【漁業体験】三戸 義明さん 大越 真也さん 名島 義久さん



三高の漁業について (藤本さん)

成果○と課題●

- 地域の魅力を知り、地域に対する愛着や貢献したいと思う生徒が増加した。
- 食中毒への知識、調理をする技能、食べ物の命を感じる力が向上した。
- 体験を他の人に伝えることが不十分。機会を作って地域の方等に伝えていきたい。